

架け橋

KAKEHASHI

特定非営利活動法人

ITC中部

<http://www.itc-chubu.jp/>

三重特集



目次

ITC中部 矢口新理事長挨拶	1
ITC三重活動の ご紹介	1
BRMSへの期待!	2
平成21年度総会報告	2
パナソニック電工 津工場様見学会の報告	3
さつまITC倶楽部様 との交流会	4
第6回架け橋会 ゴルフコンペ	4
事務局だより	4

I T C 中部矢口新理事長挨拶

●特定非営利活動法人ITC中部の会員の皆様
ITC中部会員の皆様、本年度よりITC中部の理事長を拝命させていただきました矢口です。精一杯、当会の発展に向けて努力いたしますので何卒ご支援をよろしくお願いいたします。

ITコーディネータ制度は、平成11年6月に通商産業省(現、経済産業省)の産業構造審議会情報産業部会情報化人材対策小委員会の中間報告において提唱された「戦略的情報化投資活性化のための環境整備の試み」の趣旨を踏まえ、設立されました。

またITコーディネータ協会は、平成13年2月に法人登記を完了し発足され、約8000名の資格者を世に輩出しています。

国家プロジェクトとして生まれた、ITコーディネータ資格も長い年月が経過してひとつの岐路にあることは否めません。

これからの歩み方については、私達も議論が必要と考えます。



ITC中部理事長 矢口 隆明氏

これは、PGLを基盤に必要関連ノウハウ、知識の充実を私達も率先しておこなう事を意味し、十分な学習が必要となります。

また地域イノベーションパートナーシップでのITベンダとの連携や地域力連携拠点事業でのIT経営推進パートナーとしての活動など、国の施策への参加・参画を求められています。

このような背景の中、私達のITC中部も積極的に活動に参加して、新たな針路を目指していかなければならない状況です。

そこでITC中部では、ITCの発展と資格維持・向上に向けて皆様と共に、多様な活動の牽引者として率先垂範する所存ですので、今後一層のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

(ITC中部 理事長 矢口隆明)

I T C 三重活動のご紹介

2002年6月に産声をあげたITC三重も早いものでまる7年を経過しました。当時、三重県でもITと経営を橋渡しする「ITコーディネータ」の資格認定者が集える団体として制度発足時から(株)三重ソフトウェアセンター(当時)の協力により創設され、現在は(財)三重県産業支援センターを止まり木として活動を広げています。

わが三重県ではCATV網の整備率が高く、早くからブロードバンド環境がいきわたるというITインフラは確立されていましたが、当時からITの利活用面では促進が課題となっておりました。三重県の中小企業においても、労働生産性を向上させ、新しいビジネスを創出する可能性をもったITを経営にうまく利用することが事業継続には必要です。

ITC三重もそのような使命感に燃えた、三重県を活動拠点とする「ITコーディネータ」の活動団体として発足し活動してきました。会員は21名で県内の中小企業診断士、税理士、情報処理技術者が集団となって中小企業のIT経営の促進をサポートする体制を作っています。

経済産業省の進めているITSSP事業からIT



ITC三重会員の皆さん

経営応援隊事業などへの参画、経営者セミナー・経営者研修会の実施、経営計画やIT化計画策定コンサル等の個別支援の実施など、会としても7年の指導ノウハウが蓄積されてきました。

今後も「中小企業のよきIT経営への相談相手」として信頼を高められるように研鑽を続けたいと感じており、三重県中小・中堅企業の経営改善・新しいビジネス支援のために、今日も元気に走りまわっています。

(ITC中部/三重 堀 正樹)

BRMSへの期待！

ITCプロセスガイドラインは、「知の共有と成長の原則」の中で、知の共有・活用に立脚した経営を掲げている。これは、これまでの情報システムによる人の判断・行動支援が、図1で示すように、データ処理時代から情報処理の支援に変化し、知識処理へと進出し、更なる企業成長には「知識・知恵の共有・活用」による個人と組織の能力向上が重視されてきていると云える。

これまで、知識・知恵は業務ルールとして設計基準、在庫基準、受注・発注基準などをベースに、システム化とそのルールに活用されてきた。しかし、その情報システム構築のITや開発ツールは進化したが、判定ロジック等を未だプログラミングするなどして、開発・運用手法は遅々として進化していない。また、経営者の意図する要求を効率的に企画開発、導入、運用することや変化への迅速な対応など、QCDに於いて多くの課題を抱えているのが現状である。

これらの、課題解決の一方策として、業務ルールや業務手続をアプリケーションから分離し、一元管理する手法としてBRMS（ビジネスルールマネジメントシステム）があり、金融、保健、通信、公共、医療業界などで活用され、適用範囲が拡大してきている。

私が今後のBRMSに期待するものは、各人の持っている知識と知恵を「既知を既知としてリードしてくれる仕組み」創りとその迅速性である。BRMSは、従来手法と違ってアプリケーションとロジックを切り離れた構造で開発・運用できる。かつ、以下のような利点も持ち合わせている。

- ・共通の仕様書（ルール）が最新に保持できる。
- ・業務部門とシステム開発部門との協働作業が推進し易い。
- ・仕様変更に対しても迅速で容易な対応が可能である。
- ・仕様変更追加に掛かる開発・テスト時間が大幅に短縮できる。

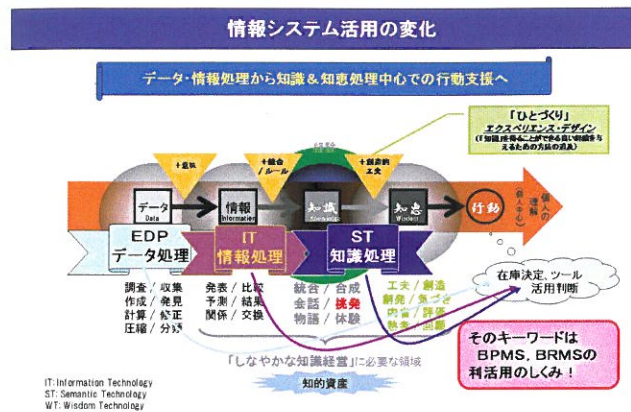


図1 情報システム活用の変化

今後の情報システムは、BRMS等を利用しつつ「データ・情報処理から知識・知恵処理中心」の判断・行動支援に推移していくと考えられる。

本来、コンピュータ活用の本質は、ビジネスプロセスで、人の判断・行動を支援することであり、情報システム部門は、コンピュータとネットワークの処理能力のみに頼らない「創造力と気づき」を発揮させるシステム構築に注力する必要がある。また、ITCは、経営戦略に密着したIT活用によるビジネス目標達成のために、必要な知識・知恵をルール体系化等により、更なる「知の共有化」を推進することが重要である。人の「知識・知恵」を得ながら、学習し、良い経験を与える場面（システムがビジネスを創る）にも、BRMSの活用は、期待できる。

(ITC中部 西園 賢治)

平成21年度総会報告

平成21年度総会・講演会が、平成21年6月6日(土)、名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)4階第7会議室において93名の参加により開催されました。水口理事長による開会挨拶・総会に引き続き、ITコーディネータ協会 関会長および中部経済産業局 地域経済情報政策課 三橋課長お二人による基調講演と、情報システム総研 原田騎郎氏による「アジャイル開発による次世代EDIの開発事例」、名古屋工業大学 岩田彰 教授による「サウンドウォッチャー -脳神経回路網のハードウェア化-」、SaaSパートナーズ協会 松田利夫氏による「SaaSとこれからの情報通信産業」の3つの特別講演をいただきました。

総会においては、平穏な雰囲気の中で、以下の5議案が可決されました。

- 第1号議案 平成20年度活動報告
- 第2号議案 平成20年度決算報告
- 第3号議案 平成21年度活動計画
- 第4号議案 平成21年度予算案
- 第5号議案 定款変更の件

原田氏の講演での、講演そのものをかんばん方式で行うという新しい試みはとても新鮮でした。本講演における要求事項を記入したそれぞれのカードを「TO-DO」に貼り、講演中はその当該カードを「DOING」に、終了したら、更に「DONE」に移すというものでした。

岩田教授の講演は、脳神経回路の仕組みをハードウェアに



(株) 情報システム総研 原田 騎郎氏

用する最先端技術の研究内容を、聴覚障害者の生活を支援する具体例を交えてわかり易く説明していただくというもので、とても興味深く聞くことができました。

最後の松田氏の講演においても、SaaS普及により今後何が起きるのかを熱っぽく語っていただき、SaaSによる衝撃の大きさを感ずることができ、非常に中身の濃い4時間でした。

(ITC中部 磯部 秀敏)

パナソニック電工津工場様見学会の報告

6月19日(金)、自主勉強会として三重県津市郊外にあるパナソニック電工株式会社津工場様への工場見学会が開催されました。当日は梅雨の間の晴天で絶好の見学日和であり、参加者19名全員が集合場所の近鉄津駅のタクシー乗り場からタクシーに分乗して国道23号線沿いの津工場様を訪問しました。

最初に、正門脇の建物の中にある会議室に案内され、工場長の山田正信様から約1時間程、津工場の概要、沿革、製造品目等のご説明をいただきました。パナソニック電工株式会社津工場様は、約100,000㎡の敷地に約1,600名の人員が働き、約61,000品目の製品を作っている大きな工場です。

また、創業は1943年(昭和18年)と歴史のある工場で、創業から今まで一貫して家電器具を製造しており、“陶製の2股電球ソケット”を作っていた工場と言えば懐かしと思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか?最近では、携帯電話等に使われるコネクタ部品も製造されているそうです。

また、限りなく良い品質を産み出すために、「マーケットニーズ・設計」、「工程・管理設計」、「設備・金型設計」、「工法設計」、「商品設計」の《五設一体思想》をもとに商品開発を行い、「商品技術」、「評価技術」、「生産技術」の3つの技術を融合させて高品質な商品を製造することが理念だと説明を聞きました。

でも、ただ単にシステムや仕組みづくりだけに頼るのではなく、人間の関わる部分である技能や技術の習得と伝承に力を入れていて、社内外の技能コンクールに積極的に参加しているとの事です。

今後も時代の流れに即して、「環境」、「高齢化」、「省エネ」、「安心」、「安全」、「便利」、「快適」といったキーワードに基づいた商品開発を進めて行くそうです。

さて、次はいよいよ工場内の見学です。その前に見学者全員に無線式イヤホンが配布され、装着して準備完了です。

今回引率してガイドをしていただく、管理部の須川さんと子様の後について別棟に向かいます。最初はコネクタ等の制御機器を製



「パナソニック電工様工場見学」参加の皆さん

造するラインの見学です。工場内は省エネのために照明を落として薄暗くしており、その中でプレス機や搬送機の音だけが聞こえます。製造ラインは材料の投入から完成品の搬送まで全自動かつ無人で動いていました。フロアにポツリという人を見ると、製造装置の傍らでパソコンの画面を見て、製造ラインのモニターをしていました。

次に、別棟に移って、家電コンセントや照明スイッチの製造組み立てラインを見学しました。このラインも製造から組み立て、作動確認、梱包に至るまでの全自動ラインです。こちらは、前のラインと違って、完成品をよく見かけるので親近感があるなと思いました。製造工程順に見ていくと壁面スイッチは人が触れる表面に比べて、内部は結構複雑な構造になっているので驚きました。

1時間強、製造ラインの見学をしましたが、技能や技術の見学は、熟練工の方は金型等を造っていて、製造ラインの中にはないために“匠の技”は残念ながら見るできませんでした。

2つのラインを見学した後、会議室のある棟に戻り、津工場様歴代の製造品展示ブースの見学を行い、60余年の津工場様の代表的な製品を年代順に拝見しました。壁面スイッチが何十年も造られる中で、その時代の最新技術や部材を取り込み、津工場様の工夫や改善を重ねて発展して来た変遷を見ることは大変興味深いものでした。

ところで、現代の壁面スイッチは、製造ラインどころか、色々なセンサーやタイマーが組み込まれていて、製品のスイッチ自体が自動化されていて大変便利になっています。

最後に、会議室に戻り、対応いただいた津工場の皆様にお礼を申し上げて終了となりました。

今回のパナソニック電工株式会社津工場様の見学は、60余年に渡りものづくりをしてきた伝統ある工場と最先端の設備を整えたものづくりの工場という2面性を同時に持った工場の見学ということで中身の濃い大変有意義なものでした。

(ITC中部 近藤 康弘)



「パナソニック電工様工場見学」自主勉強会

さつまITC倶楽部様との交流会

2009年3月14日(土)に鹿児島市で「さつまITC倶楽部」との合同勉強会(ITC中部としては8回目の他地区ITC団体との交流会)が開催されました。ITC中部からの参加者は伊藤広報委員長はじめ7名の広報委員、さつまITC倶楽部側は23名と、総勢30名での交流会となりました。さつまITC倶楽部の新谷幹事長挨拶、伊藤委員長(ITC中部)挨拶、和澤副理事長(同)の「ITC中部紹介」、溝口ITC(同)の「ITCを活用したシステム導入事例」、秋山ITC(同)の「アジャイル開発について」、上ノ町ITC(さつまITC)の「さつまITC倶楽部紹介」、溝添ITC(同)の「個人情報保護とプライバシーマークの取得について」の講演が行われ、大変充実した内容でした。

勉強会の後は鹿児島市の居酒屋「焼き鳥の西屋」にて勉強会参加メンバーの殆どが参加して盛大な懇親会が開かれ闊達な意見交換を行い、ITC活動の活性化に向け決意を新たにしました。

翌日は参加者の内6名でレンタカーを借り、夕方の飛行機までの時間を利用して、城山公園、仙巖園、桜島等を見学し、鹿児島の名所・旧跡を堪能しました。



さつまITC交流会・懇親会参加の皆さん

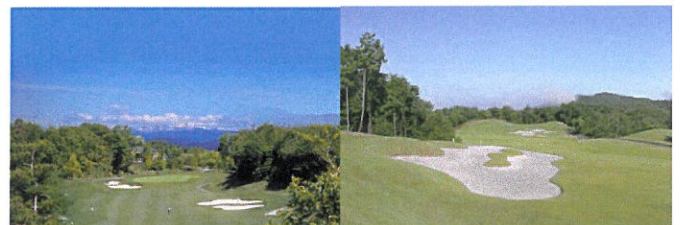
(ITC中部 日比 政博)

第6回架け橋会ゴルフコンペ(多治見北ゴルフ倶楽部)

2009年4月11日(土)ITC中部広報委員会主催の第6回架け橋会ゴルフコンペが多治見北ゴルフ倶楽部で開催されました。新年度の最初の開催ということで矢口新理事長のご参加をいただき、森田新広報委員長のご挨拶で、快晴の中、スタートしました。楽しくうちとけた雰囲気の中、皆さん、勝敗にはこだわらない豪快なプレーでゴルフを楽しめました。

架け橋会ゴルフコンペをご紹介しますと、今回の優勝スコアはグロス99/ネット76.2、また上位5位の平均スコアはグロス98.2/ネット77.1という結果でした。今回も実力が均衡し、毎回、僅差の接戦(舌戦)が多いようです。

賞品・景品にもこだわりがあり、今回は静岡県の名産品であります清酒、静岡茶、まぐろの角煮、わさび漬けなどをご用意しました。特に清酒はお酒好きの参加者には大好評でした。また、ゴルフの景品を各自で持ち寄ることも行っています。いただきもののワイン・洋酒やご自宅の畑で採れた新鮮な野菜・穀類



多治見北ゴルフ倶楽部

などは大変人気があります。

架け橋会ゴルフコンペはゴルフを通じてITC中部の皆さんの交流と親睦をはかっています。スコアにこだわらず、和気あいあいと楽しく開催していますので、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

(ITC中部 溝口 光二)

事務局だより

今年度から、鳥内事務局長の後任として、私(伊藤実)が事務局を担当いたしますのでよろしくお願いいたします。

1. 年会費の納付のお願い

21年度になり6ヶ月が経ちましたが、21年度の年会費(5,000円)をまだ未納の方が居られます。下記銀行口座にお振込みをお願いいたします。

<振込先>

銀行名:三菱東京UFJ銀行 金山支店

口座:普通、1090276

口座名:トクティヒエイリカツドウハウジンアイ

尚、会社名義でお振込みの場合には、お手数料かけますが会社名と振込者名を事務局まで、ご連絡をお願いいたします。

2. 会員登録情報確認のお願い

広報誌「架け橋」を会員の皆様へ毎年2回お送りしていますが、返送されてくるケースが発生しております。広報誌が届かない、会員メールが届いていないという方が周囲に居られましたら、是非、事務局までご連絡をお願いいたします。

3. パンフレット、広報誌配布のお願い

ITC中部のパンフレットや広報誌「架け橋」を、ITコーディネータの知名度アップや、ITC中部への入会のお誘いなどに活用ください。ご入用の際には、事務局までご連絡ください。

ITC中部 事務局連絡先 info@itc-chubu.jp

(ITC中部事務局 伊藤 実)

NPO・ITC中部広報誌第13号 平成21年9月30日 発行

発行: NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山五丁目11-6(NSC)内)

発行責任者: NPO・ITC中部 理事長 矢口 隆明 編集責任者: NPO・ITC中部 広報委員長 森田 正博

ホームページ(<http://www.itc-chubu.jp/>)